

推進会議、幹事会及び策定会議の場での意見報告

	推進会議	幹事会	策定会議
年	<ul style="list-style-type: none"> ・2060年は先行き長すぎて実現性に乏しい ・著しい社会の変遷を遂げる社会情勢を勘案し、2040年程度がいいのではないかと 	<ul style="list-style-type: none"> ・過去45年間で物凄い変化があったので、2060年の45年後だと想像できない ・ある程度将来が見通せる2040年の方がよい ・国・県の目標年次に合わせた方が、対比がしやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ・将来が見通せる2040年までがよい
人口	<ul style="list-style-type: none"> ・国の人口ビジョンと同程度の下落でいいのではないかと ・減少する人口に応じたまちづくりが必要 ・将来展望が低く市民が不安、夢も希望もない ・絶望的な数値を提示することにより、企業の投資意欲が失われる懸念 ・市民が危機意識を持つことも重要 ・他市では減少傾向のグラフのみを提示し、数値を表示しない例もある 	<ul style="list-style-type: none"> ・茂原には工業団地は勝浦だと通勤圏であるため、社会増は期待できない ・目標人口は根拠まで求められていないのだから、2060年7万人としてもいいのではないかと ・夢のような目標にしてしまうと施策も苦しくなるので、現実的な目標にするべきである ・2040年の目標人口70,471人が社人研の推計72,518人よりも少ないとつじつまが合わないのではないかと ・2040年に目標とする将来人口71,000人でよい 	<ul style="list-style-type: none"> ・企業誘致等による外部要因を考慮し推計を出すべきである ・社会増の見積もりが少なく、推計の出し方が極端である ・国や県の人口ビジョンより低い目標にすることはできない ・人口ビジョンが低く、企業が進出してこない ・目標人口として71,000人は少な過ぎる。8万～8万5千人とするべきである
総合戦略	<ul style="list-style-type: none"> ・「働き方改革」を進めて欲しい(長時間労働の抑制、年次有給休暇の取得促進)。ワークライフバランス ・教育に特色を出したいのであれば、より低年齢の幼児教育で実施した方がインパクトは強い。 ・子育ての分野で、幼児期だけを取り上げているところに違和感がある。 ・男性が育児に参加することに理解のある企業にはインセンティブを付ける。 ・中学高校の時から地域との繋がりを密にしてUターンを狙っている自治体もある。 ・愛着心を育むような施策を検討してはどうか。 ・「人材を育てる」という視点が弱い。 ・茂原でしかできない教育が必要。 ・企業が子供の人数を公表している自治体もある。 ・人材教育セミナーを実施して欲しい(人材派遣) ・茂原には文化的施設がない。 ・国のものづくりの助成金を活用しているが、とても有効である。 ・駅を中心とした施策があると良い。 ・広域連携の戦略が弱い。 ・若い人で農業に興味を持っている人が多くいる。 ・後継者がいない企業に対し、第三者を紹介するという支援が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・企業誘致については他の自治体でも奨励金合戦をやっているため、魅力のある奨励金をつくりたい。 ・企業誘致や既存企業の支援も重要であるが、生産年齢人口を増やすことに重点をおくべきである。 ・郷土愛を育む人材育成を入れて欲しい。 ・総合戦略と並行して、まず遅れているところを取り戻す施策をしなければ、作った戦略に対して実態が伴わないことに 	<ul style="list-style-type: none"> ・おめでとう赤ちゃんセットの反響が意外に大きい。そのような施策による変化を期待したい。 ・天然ガスに魅力を感じて移り住んで来ている人がおり、ガラス工芸家のまちづくりをしたいと話している。 ・ターゲット層を意識して施策を考えていただきたい。 ・市内企業の地元雇用意欲が強いとあるが、安い労働者がいない。外国人を増やすという方法もある。 ・観光では彦根の門前町や大多喜町の景観などが良い例。 ・教育特区であれば英語だけでなく第2外国語としてスペイン語や中国語を話せるようにするなど。 ・小中学校では地元で愛着をもってもらえるよう、地域とのふれあい教育を重視している。